



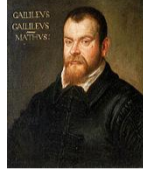




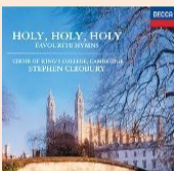














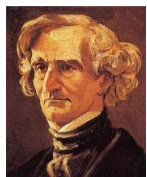

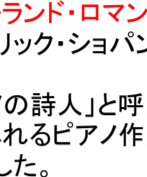


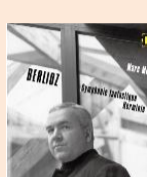
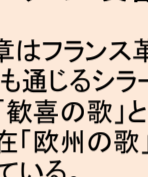


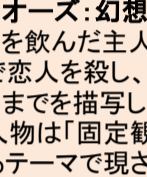




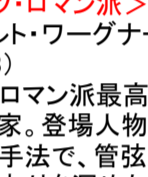
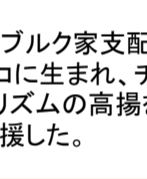


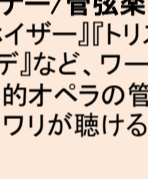
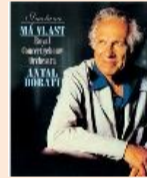

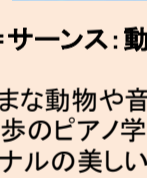
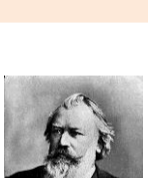
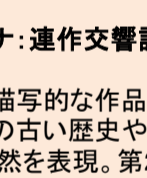

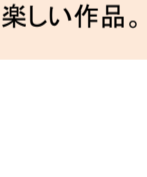
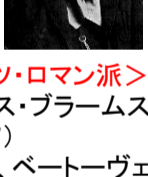






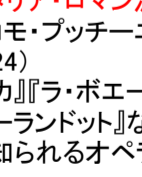




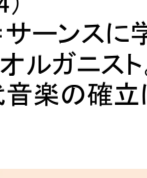
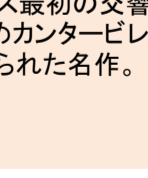
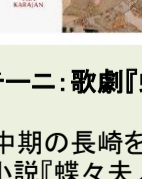


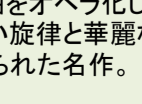
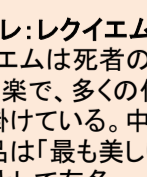

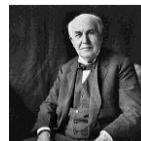



世界史、日本史と比較しながら見たクラシック音楽の歴史（作曲家編）






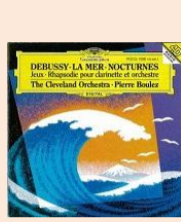
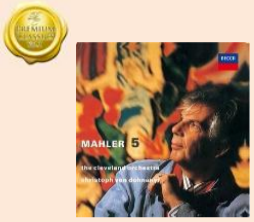
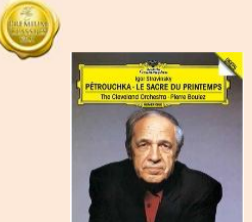















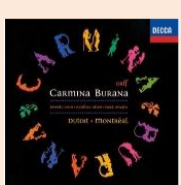
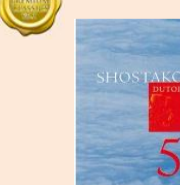
西洋の芸術音楽である「クラシック音楽」は、中世の教会音楽（単旋律の「グレゴリオ聖歌」）や、世俗音楽（単旋律の歌）を起源にもっています。その後、2つ以上の旋律を同時進行させるポリフォニー（多声音楽）が生まれ、その均整と調和を特徴とする音楽は15～16世紀のルネサンス期に隆盛を迎えます。この均整と調和を打ち破るものとして生まれたのが17～18世紀のバロック音楽で、激しい感情表現や流動感を特徴としています。ここでは、バロック期の音楽以降を、世界史、日本史と比較しながら年表形式にまとめました。

年号	出来事	同時代の有名人	クラシック音楽への影響	イタリア	フランス	ドイツ	その他の国々
1600	関ヶ原の戦い						
1600頃	オペラの誕生(イタリア)	 徳川家康 (1543～1616)	1607年にモンテヴェルディのオペラ「オルフェオ」が初演され大成功。以後オペラというジャンルが定着する。				
1618～48	30年戦争(ドイツ)	 ガレリオ・ガリレイ (1564～1642)	キリスト教でのプロテスタントの力が強まり、教会でのオルガン音楽やカンタータが隆盛する	<ルネサンス> クラウディオ・モンテヴェルディ(1567～1643) 「オペラ」というジャンルを定着させる。	<フランス・バロック> ジャン・バティスト・リュリ(1632～1687) フランス・バロック歌劇の基礎を築いた。	<ドイツ・バロック> ハインリッヒ・シュッツ(1585～1672) バッハの丁度100年前に生まれた「ドイツ音楽の父」	
1665	ニュートン、万有引力を発見	 アイザック・ニュートン (1642～1727)					
1687	生類憐みの令が出される						
1702	赤穂浪士が本所吉良屋敷に討ち入る	 大石内蔵助 (1659～1703)			<フランス・バロック> フランソワ・クーブラン(1668～1733) 器楽合奏、鍵盤楽器のための楽曲を数多く作曲した。		
1709	現代ピアノの前身、ピアノ・フォルテが発明される		・イタリアの楽器製作者クリストフォリ(1655～1731)が音の強弱を表現できる鍵盤楽器ピアノ・フォルテを考案、製作する。	<イタリア・バロック> アントニオ・ヴィヴァルディ(1678～1741) ソロ楽器とオーケストラが競い合う「協奏曲」のスタイルを確立。バッハに影響を与えた。		<ドイツ・バロック> ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685～1750) 「音楽の父」と呼ばれる偉大な存在。器楽曲から声楽曲まで、幅広い分野で傑作を残した。	讃美歌集 16世紀の宗教改革以降、母国語で讃美歌が作られるようになり、バッハの宗教音楽にも影響を与える。イギリスでは18世紀以降、創作讃美歌が盛んとなる。
1716	徳川吉宗8代将軍となる→享保の改革	 徳川吉宗 (1684～1751)					
1725	ヴィヴァルディ、ヴァイオリン協奏曲集『四季』を作曲			ヴィヴァルディ:ヴァイオリン協奏曲集『四季』 LPレコードで、このイ・ムジチ合奏団の演奏がベストセラーとなり、作品のイメージ形成に大きな役割を果たした。		バッハ:ゴルトベルク変奏曲 アリアと30の変奏曲、そしてアリアが再現する、1時間ほどの小宇宙のような鍵盤楽器用の作品。刻々と変化する情景を名手シフが豊かな音楽性で描いている。	
1742	バッハ、ゴルトベルク変奏曲を作曲	 平賀源内 (1728～1780)	・バロック期の音楽は、器楽曲だけでなく歌曲や宗教曲でも器楽が重要な要素を占めるようになった。「音楽の父」バッハがその集大成を行う。				
1774	杉田玄白・前野良沢らが「解体新書」を著す					<ウィーン古典派> ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791) オーストリア出身。音楽史上、最高の天才作曲家。	
1781	モーツァルト、ザルツブルク大司教コロレドと決別し、フリーの音楽家となる	 ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ (1749～1832)	・「神童」モーツァルトは交響曲からオペラまで、全てのジャンルに傑作を残し、先輩ハイドンにも影響を与える。				
1785	モーツァルト、ウィーンでの演奏会で、自作のピアノ協奏曲第20番を自らのピアノで初演					モーツァルト:ピアノ協奏曲第20 & 24番 音楽家として独立したモーツァルトは新作の演奏会や楽譜出版で生計を立てる。この2曲もそのために書かれた。	

作曲家の肖像画、または肖像写真は、タワーレコード・オンラインの作曲家ページにリンクしています。また、参考CDに挙げたジャケット写真は、タワーレコード・オンラインの商品詳細ページにリンクしています。

 マークがついたCDは「TOWER RECORDS PREMIUM CLASSICS Vol.1」略して「プレクラ」シリーズの1枚です。

	年号	出来事	同時代の有名人	クラシック音楽への影響	イタリア	フランス	ドイツ	その他の国々
19世紀	1789	フランス革命		・市民階級が台頭し、旧体制の崩壊がはじまる。それに伴い、教会や貴族の庇護にあった音楽家も独立して活動をはじめめる。	 ＜イタリア・ロマン派＞ ニコロ・パガニーニ(1782～1840) ヴァイオリンの超絶的な手。リストのピアノ曲に影響を与えるなど、多くの作曲家をインスパイアした。		 ＜ウィーン古典派～ロマン派＞ ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827) 革新的な作風は表現の幅を拡大し、ロマン派への扉を開いた。	
	1791	フランス政府、ユダヤ人に一般国民と同等の権利を与える法律を公布	 葛飾北斎(1760～1849)			 ＜フランス・ロマン派＞ エクトール・ベルリオーズ(1803～1869) 標題音楽の傑作「幻想交響曲」は、19世紀の多くの作曲家に影響を与えた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ フランツ・リスト(1811～1886) ピアノの天才。多くの作曲家に影響を与えた。	 ＜ポーランド・ロマン派＞ フレデリック・ショパン(1810～1849) 「ピアノの詩人」と呼ばれ、詩情あふれるピアノ作品を数多く作曲した。
	1804	ナポレオン、フランス皇帝に即位	 ナポレオン・ボナパルト(1769～1821)		 パガニーニ: 24のカプリース ヴァイオリンの多彩な技巧を駆使して、様々な情景を描写した24の小品集。デビュー当時の五嶋みどりによる快演。	 ＜フランス・ロマン派＞ エクトール・ベルリオーズ(1803～1869) 標題音楽の傑作「幻想交響曲」は、19世紀の多くの作曲家に影響を与えた。	 ベートーヴェン: 交響曲第9番 第4楽章はフランス革命の思想にも通じるシラーの詩による「歓喜の歌」として有名。現在「欧州の歌」にも採用されている。	 ショパン/ピアノ名曲集 多彩なピアノ小品には激しい情熱や繊細な詩情など、彼の作品のエッセンスが満ちている。
	1812	ナポレオン、ロシアで敗退			 ＜イタリア・ロマン派＞ ジュゼッペ・ヴェルディ(1813～1901) イタリア最大のオペラ作曲家。人間心理の描写を追求しつつ、音楽の流れと歌を重要視した。	 ベルリオーズ: 幻想交響曲 アヘンを飲んだ主人公が夢の中で恋人を殺し、地獄へ落ちるまでを描写した音楽。登場人物は「固定観念」と呼ばれるテーマで現されている。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ リヒャルト・ワーグナー(1813～1883) ドイツ・ロマン派最高のオペラ作曲家。登場人物を音楽で現す手法で、管弦楽の劇への関わりを深めた。	 ＜チェコ・国民楽派＞ ベドルジハ・スメタナ(1824～1884) ハブルブルク家支配下にあったチェコに生まれ、チェコのナショナリズムの高揚を音楽面から支援した。
	1824	ベートーヴェンの交響曲第9番初演	 マシュー・C・ペリー(1794～1858)	・ベートーヴェンは第9交響曲で「詩と音楽の融合」を実践し、音楽をロマン派へと導いた。シューベルト、ベルリオーズ、リスト、ワーグナーは多大な影響を受けた。		 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。	 ＜ロシア・ロマン派＞ ピョートル・チャイコフスキー(1840～1893) 国民楽派とは一線を画し、西欧の洗練された作風により、美しく感傷的な作品を数多く生み出した。
	1831	ポーランド滅亡		・ポーランド、チェコ、ノルウェー、フィンランドなど、他国の支配下にあった国々では民族自決の機運が高まり、「国民楽派」と呼ばれる作曲家が音楽で後押しした。	 ヴェルディ: 歌劇『椿姫』全曲 パリの高級娼婦を題材としたデューマ・フィスの戯曲をオペラ化したもの。悲劇だが、華やかさや美しいメロディに溢れた傑作。	 サン＝サーンス: 動物の謝肉祭 さまざまな動物や音楽評論家、初歩のピアノ学習者を、オリジナルの美しい旋律や過去の名曲のパロディで表現した楽しい作品。	 ワーグナー/管弦楽曲集 『タンホイザー』『トリスタンとイゾルデ』など、ワーグナーの代表的オペラの管弦楽部分のサワリが聴けるアルバム。	 スメタナ: 連作交響詩『わが祖国』 6つの描写的な作品によりチェコの古い歴史や文化、美しい自然を表現。第2曲『モルダウ』はあまりにも有名。
	1832	葛飾北斎の「富嶽三十六景」ができる	 エイブラハム・リンカーン(1809～1865)			 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。	 ＜ロシア・ロマン派＞ ピョートル・チャイコフスキー(1840～1893) 国民楽派とは一線を画し、西欧の洗練された作風により、美しく感傷的な作品を数多く生み出した。
	1840～42	アヘン戦争	 チャールズ・ダーウィン(1809～82)	・ピアノのショパン、リスト、ヴァイオリンのパガニーニ、サラサーテといった名手が活躍。それぞれの楽器の表現力拡大に寄与した。		 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。	 ＜ロシア・ロマン派＞ ピョートル・チャイコフスキー(1840～1893) 国民楽派とは一線を画し、西欧の洗練された作風により、美しく感傷的な作品を数多く生み出した。
	1853	黒船来航	 勝海舟(1823～99)		・革新的な作曲家ワーグナーは「トリスタンとイゾルデ」で用いた「トリスタン和音」により伝統的な機能と声の崩壊を予告。現代音楽への先鞭をつけた。	 ＜イタリア・ロマン派＞ ジャコモ・プッチーニ(1858～1924) 『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』などの名作で知られるオペラ作曲家。	 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。
	1865	ワーグナーの楽劇『トリスタンとイゾルデ』が初演される	 レフ・トルストイ(1828～1910)			 ＜イタリア・ロマン派＞ ジャコモ・プッチーニ(1858～1924) 『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』などの名作で知られるオペラ作曲家。	 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。
	1867	大政奉還	 福沢諭吉(1835～1901)			 ＜イタリア・ロマン派＞ ジャコモ・プッチーニ(1858～1924) 『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』などの名作で知られるオペラ作曲家。	 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。
	1870～71	普仏戦争			・普仏戦争に敗れたフランスでは、現存のフランス人作曲家による作品の紹介に努める国民音楽協会が設立された。20世紀前半のフランス近代音楽の隆盛につながる。	 ＜イタリア・ロマン派＞ ジャコモ・プッチーニ(1858～1924) 『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』などの名作で知られるオペラ作曲家。	 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。
1871	フランス国民音楽協会の設立				 ＜イタリア・ロマン派＞ ジャコモ・プッチーニ(1858～1924) 『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』などの名作で知られるオペラ作曲家。	 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。	
1877	エジソン、フォノグラフを発明	 トーマス・エジソン(1847～1931)	・録音技術の発明により、音楽家はレコードから収入を得ることができるようになった。但し、レコードが本格的に普及するのは20世紀に入ってからである。		 ＜イタリア・ロマン派＞ ジャコモ・プッチーニ(1858～1924) 『トスカ』『ラ・ボエーム』『トゥーランドット』などの名作で知られるオペラ作曲家。	 ＜フランス・ロマン派＞ カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921) 作曲家、ピアニスト、オルガニストとして活躍したほか、音楽以外の分野でも博識で知られた。	 ＜ドイツ・ロマン派＞ ヨハネス・ブラームス(1833～1897) バッハ、ベートーヴェンとともに「ドイツ3大巨匠」と呼ばれる大作曲家。	

	年号	出来事	同時代の有名人	クラシック音楽への影響	イタリア	フランス	ドイツ	その他の国々
	1889	パリ万国博覧会開催	 フィンセント・ファン・ゴッホ (1853~1890)	・アジアの音楽や美術が紹介され、パリの芸術家たちに大きな影響を与えた。				
	1894	日清戦争	 夏目漱石 (1867~1916)			<フランス印象派> クロード・ドビュッシー(1862~1918) ロマン派から脱却した独創的な旋律、音色、リズムを獲得し「印象派」の始祖となった。	<ドイツ・ロマン派> グスタフ・マーラー(1860~1911) ユダヤ系の作曲家で、長大な交響曲を作曲する傍ら、当代最高の指揮者としても活躍した。	<原始主義→新古典主義→セリー音楽> イーゴリ・ストラヴィンスキー(1882~1971) ロシア出身、フランスとアメリカで活躍。作風の変化から「カメレオン」と呼ばれた。
20世紀	1904~05	日露戦争						
	1913	ストラヴィンスキーのバレエ『春の祭典』がパリで初演され、大スキャンダルとなる	 セルゲイ・ディアギレフ (1872~1929)	・ロシア出身の興行主ディアギレフは、パリでロシア・バレエ団を立ち上げ、音楽、美術、舞踏に天才を揃えた「総合舞台芸術」を産み出し、20世紀の芸術に多大な影響を与えた。		ドビュッシー:海 夜明けから刻々と変わる海の日を描写した、印象派を代表する名曲。楽譜出版の際は、表紙に葛飾北斎の浮世絵が使われた。	マーラー:交響曲第5番 ロマン的抒情と内面から湧き上がる激しい情感を見事に表出した交響曲。第4楽章が映画『ベニスに死す』で効果的に用いられ有名に。	ストラヴィンスキー:『春の祭典』 伝説的興行主ディアギレフが率いたロシア・バレエ団のために書かれた、変拍子や不協和音が炸裂する当時の前衛的作品。
	1914~19	第1次世界大戦						
	1921	シェーンベルクが「12音技法」を体系化		・両大戦間のウィーンではワーグナーの流れを汲むシェーンベルクが登場。12音技法を体系化し、機能と声の拘束を離れた音楽を産み出した。	<イタリア近代> オットリーノ・レスピーギ(1879~1936) 大規模でカラフルな管弦楽曲から、古い音楽を題材とした小編成の作品まで、幅広く作曲した。	<フランス印象派> モーリス・ラヴェル(1875~1937) 「スイスの時計職人」と呼ばれた精緻な作曲技法により、繊細で色彩的な作品を産み出した。	<12音技法> アルノルト・シェーンベルク(1874~1952) 後期ロマン派風表現主義から出発し、12音技法による理論を確立。現代音楽に大きな影響を及ぼした。	<ロマン派> フリッツ・クライスラー(1875~1962) オーストリア出身。ヴァイオリンの自作自演での情緒あふれる音楽は音楽ジャンルを超えて親しまれた。
	1922	ソヴィエト連邦が成立		・ロシア革命、ソ連成立の混乱期を嫌って、多くの優秀な音楽家がフランス、アメリカ、日本などに逃れた。				
	1925	マイクロフォンを用いた電気録音始まる	 パブロ・ピカソ (1881~1973)	・マイクロフォンの開発により、レコードの音質が飛躍的に改善され、オーケストラ作品が盛んに録音されるようになった。	レスピーギ:交響詩『ローマの噴水』『ローマの松』『ローマの祭り』 ローマの歴史や風物をテーマとした大規模なオーケストラ作品。「ローマ三部作」と呼ばれている。	ラヴェル:ボレロ 同じリズムを15分間ほどずっと繰り返し、徐々にクレッシェンドしてゆく、シンパながら圧倒的な演奏効果をもつ作品。	シェーンベルク:管弦楽のための変奏曲 シェーンベルクが12音技法を使って作曲した最初の大規模な作品。	クライスラー:愛の喜び、ほか 誰でも知っている美しいメロディをもつ作品。クライスラーは様々な人間感情を3~5分くらいの小品にまとめる天才だった。
	1929	世界恐慌はじまる	 フランクリン・ルーズベルト (1882~1945)					
	1933	ドイツでヒトラーが政権を獲得	 チャールズ・チャップリン (1889~1977)	・ドイツではユダヤ人が公職追放された。優秀なユダヤ人音楽家がアメリカ、日本、オセアニアなどに逃れたため、それらの国の音楽家たちが育つことになった。				
	1939~45	第2次世界大戦					<ドイツ近代> カール・オルフ(1895~1982) 強烈なリズムの反復を特徴とした独自の手法をもつ音楽は、現代音楽への影響も大きい。	<ソ連近代> ドミトリ・ショスタコーヴィチ(1906~1975) 斬新な手法を取り入れ、再三体制側からの批判にさらされる。後年は人間の内的苦悩を表現した。
	1948	LPレコードが開発される	 湯川秀樹 (1907~1981)	・30センチ・レコードで片面4分程度だった収録時間が20分ほど(後に30分ほど)に伸びた。レコードの材質も割れにくく、スクラッチ・ノイズの少ないヴィニールとなった。				
1961	ベルリンの壁建設		・ソ連では政府が作曲家に介入し、作品への「社会主義リアリズム」の反映を要求。抑圧の中でショスタコーヴィチは数々の傑作を産み出した。			オルフ:カルミナ・ブラーナ 若者の恋愛や酒、性などをテーマにした中世の詩に、オルフがオーケストラと合唱で音楽を付けた壮大な作品。	ショスタコーヴィチ:交響曲第5番、第9番 作曲家を一躍国民的芸術家に祭り上げた第5番。軽妙で諧謔的な内容のため厳しい批判を受けた第9番。対照的な2曲を収録。	